

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東雲1-9東雲キャナルコートCODAN16号棟210号室
施設名	おうち保育園しのめ

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

生き物

〈テーマの設定理由〉

<ul style="list-style-type: none">・ 普段の生活の中で動物や虫、植物、食べ物などを目にする「これなに？」と興味を持つこどもたちの姿が見られる。・ 好きなものを通して、様々な経験（食育・買い物・散歩など）を友だちと共有し楽しんでいる。・ 楽しいと感じること、やりたいことの実現をしていくため。
--

2 活動スケジュール

<ul style="list-style-type: none">・ 絵本やシアターを見て聞いたり、生き物の玩具で遊んだりすることで、生態(形や色、名前)を知る。・ 調理に携わること、食べることを通して「命があること」を学ぶ。・ 土や植物の苗に触れる。また、毎日の水やりや成長観察をする。・ 実際の生き物を見たり触れたりして観察体験をする。
--

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

素材：粘土、画用紙、シールなど。 道具：クレヨン、パズル、エプロンなど。 環境：卓上遊びなどを快適に楽しくおこなえるよう、こどもに合わせたテーブルと椅子を用意する。 配慮：こどもが自由に選べるよう、十分な種類・量を確保する。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・絵本やシアター、パズルなどの多彩な教材を通して、こどもが好きな生き物（動物・植物・昆虫など）への興味や関心を深め「いのちがあること」「いのちのたいせつさ」を感じる。
- ・水族館や植物園など、実際の生き物を見て触れて感じられるようにする。
- ・食育活動を通して、毎日元気に遊んだり、大きくなったりするためには、食べ物からエネルギーをもらう必要があることを知り、感じられるようにする

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・パズル遊びに夢中になって黙々と1人で取り組む児、友達や保育者と一緒に生き物の名前を確認する児、複数人で協力しながら完成させていく児などの姿が見られた。
- ・保育者が生き物の絵本やシアターの絵を見せて、「これなんだろう？」とクイズ形式で紹介していくと、こどもたちは名前を当てることに集中し「ぼった」「かまきり」「きりん」「うさぎ」などの生き物の名前を覚えていくことに繋がった。
- ・食育活動では、調理前のひき肉を不思議そうに見つめたり触って感触を確かめたりしていた。調理後のひき肉を食べることで、調理前後の食材の変化を体験し、食材への興味ที่わき、自分から進んで食べようとする意欲が引き出されていた。
- ・植物の栽培では、球根の薄皮をむき、土に植えて、水やりする体験ができた。「むずかしい」と苦戦しながら皮をむいたり、「もっとやりたい」と植木鉢に水が溜まったり土の色が変化したりする様子を観察しながら水やりをしていた。
- ・移動水族園では、好奇心を持ち「これはなんだろうね」と考え、知識を求め「これなに？」と聞き、理解を深めていた。保育者が生き物に触っている姿を見せることで、生き物が苦手な児や触り方がわからない児でも「触ってみようかな」という安心感や好奇心が芽生えていた。実際に生き物を見て「大きいね」「ちょっとこわい」、触って「冷たい」「つるつるしてる」など、思い思いに感じたことを言葉にしていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

日常の遊びに生き物の玩具や素材（パズルやシールなど）を取り入れたことは、こどもの興味・関心を高める上で非常に有効だと感じた。玩具を通じて「なぜ?」「不思議だな」と感じる体験が、本物への興味（実物を見たい、調べたい）へとつながり、探究心を刺激することとなった。実際に、本物の生き物をもつ手触りや動きなどを見て、触れて、感じたことで「知りたい」という意欲に結びついている様子だった。大人が「これは〇〇だよ」と教えるのではなく、「これはなんだろうね」と一緒に考えて本気で面白がることで、さらにこどもの探究心が加速していく姿勢となった。